



自衛隊栃木地方協力本部

那須中学「防災教育支援」を実施 ～いざというときに命を守る行動を～



座学の様子



止血法教育の様子



装備品体験の様子（1/2 tトラック展示）



装備品体験の様子（ピストン式破壊工具）

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井 1 陸尉）は、1 月 24 日（金）、那須町立那須中学校において、学校が主催する防災教育を支援した。

防災教育は、「いざというときに命を守る行動を」をテーマに、座学、体験の 2 つのパートに分けて行われた。座学パートは、自分たちが住んでいる地域の特性を理解させ、どのような災害が起こりやすいか、また自分たちがそれらの災害に対して何が準備できるか、どのように対処すれば良いかをスライドを用いてわかりやすく説明を行った。体験パートは、身近なものをを用いた止血法及び固定法の要領の習得や、災害現場で活躍する車両・装備品を実際に触って体験した。

教育が始まり、自衛隊が過去対応した災害派遣の様子や水害にあった地域の写真がスクリーンに映し出されると、生徒たちは真剣なまなざしでそれを見つめていた。また、中学生にもわかりやすいようにクイズを取り入れるなど、生徒たちが自ら考え積極的に発言する機会をつくり、実りのある教育を実施することができた。

体験パートにおいては、生徒同士でグループを作り、出血や骨折に対する処置方法を試行錯誤しながら行った。参加者の生徒の 1 人は「包帯やギブスがないと骨折は固定できないと思っていたけどこれなら自分たちでもできそう」と感想を述べた。装備品の体験では、普段見ることのない自衛隊の車両や装備品に目を輝かせ「これはどういう場面で使うんですか？」と積極的に質問を投げかけ、ピストン式破壊工具を体験した生徒は「簡単にコンクリートが割れると聞いて驚きました。こういった装備で人命救助をしているということが知れてよかったです」と満足げな表情を浮かべていた。

支援を行った広報官は「この防災教育で、防災に対する意識を高め、いざというときに自身や仲間を守るができる知識、技能を習得してもらえればうれしいです」と感想を述べた。

大田原地域事務所は、引き続き多くの学校との連携及び信頼関係を強化し、「地域密着型」の広報で邁進していく」としている。



固定法体験の様子